

庄内町立図書館だより

よめっちゃ

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2017.10.31(No.28)



新着図書・ガイドブックコーナー
リニューアルしました!

新着図書を1つの
棚にまとめました

ガイドブックもさらに
見やすくなりました

新しい文学全集
いちおしです



図書館カレンダー ★開館時間

⇒休館日 平日 午前 9:00～午後 6:00
⇒10冊貸出 土日 午前 9:00～午後 5:00

日	月	火	水	木	金	土
	11月		1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7日 文学講座 宮沢賢治の実像に迫る
～みんなの本当の幸いを探す旅～

講師：近江正人 氏

場所：響ホール ☆参加費無料、申し込み必要

15日 おはなしらんど★たのしいおはなし会
さとうまりこさんの絵本をたのしもう!

時間：10時～

場所：内藤秀因水彩画記念館1階 ☆申し込み不要

17日 絵本作家 さとうまりこさんによる
ギャラリートーク

時間：18時～

場所：内藤秀因水彩画記念館1階 ☆申し込み不要

読書の秋におすすめの **随時更新**
特別展示特集!

ノーベル文学賞受賞 カズオ・イシグロ作品

今年のノーベル文学賞に、日系イギリス人作家
のカズオ・イシグロ氏が選ばれました。

1994年に受賞した大江健三郎以来の日系人の
受賞者!当館でもその作品を所蔵しております。

とても人気なため、貸出中の場合も…
ご予約も承っておりますので、どうぞ
ご利用ください!

コラボ企画 水彩画記念館×図書館
山形 × **絵本**

11/19(日)まで開催の『さとうまりこ絵本原
画展』にちなみ、さとうまりこさんと同じく、山
形県出身の絵本作家さんの作品を集めました。

内藤秀因水彩画記念館への入り口に展示して
おります。気になったものはぜひご利用下さい!

読むと冒険・旅に出たくなる本
～読むとわくわくする本～

山形県図書館大賞



カウンター前
(一般書側)
にて展示中です

県内の図書館職員
382名が選んだ
30作品!

図書館員の熱い想いが詰まった、
帯のおすすめコメントにもご注目ください!

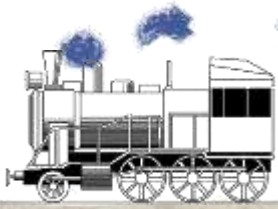
新着図書・ガイドブックコーナーの他に、文庫本
コーナーもプチリニューアルしました😊

「ここが使いづらい…」「ここが好きだ!」
など、ご要望やご意見もドシドシお寄せください!

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308



おすすめ 宮沢賢治

今年度の文学講座を受講される方も、そうでない方も、みんなでちょっと通な読み方、してみませんか？

『齋藤孝のイッキによめる！小学生のための宮沢賢治』 齋藤孝／著（講談社）

小学生の頃、よだかが弱肉強食の因果の辛さから自己解放すべく、空へ昇り星になる『よだかの星』の童話、先ず他人の事を考え他人に尽くす『雨ニモマケズ』の詩、に触れ、「宮沢賢治って…お坊様？」と“テクノボー”の様に考えたものでした（巻末に著者紹介はあったらうに…。私の至らなさは相変わらずで、現在は体重だけが当時の倍以上に成長した超極太テクノボー）。



本書は、この世に存在する全てのものに対する深い愛情から生まれた詩情に溢れた宮沢賢治作品より、教育学者、作家、明治大学文学部教授の著者が、特に読み易くて、面白いものを選出。著者の丁寧な解説とクイズ付で、頭と心にキチンと入るだけではなく、宮沢賢治の愛情や実質、美しい日本語、優しい心も体の中に沁み渡り、力が漲る様です。しかも、本文は原文が尊重され、旧仮名使いや難しい表現には、判り易い説明が付記されているため、不朽の名作の数々を、まさに“イッキによめる！”です！！



『賢治童話ビジュアル事典』 中地 文／監修（岩崎書店）



たとえば「ラッコの上着」である。『銀河鉄道の夜』を初めて読んだとき、「お父さんはこのつぎはおまえにラッコの上着をもってくるといったねえ。」という台詞が、兎に角ジョバンニに対する冷やかいらしいのだが、よく分からずにいた。それから「三角標」や「電気菓子」なども同様で、何やら分からないが、登場する言葉・モチーフの印象が強く残る。賢治の作品を読んでいると、そんなことが間々ある。

そうしたとき、語感からそれらを自由に想像してみることは楽しい。けれど、賢治と同時代の人々の生活の感覚や知識に少し寄り添ってみることで、明確なイメージを共有できる言葉も実は意外と多い。この事典には、賢治の童話に登場する重要な、そして私たちから少し縁遠くなってしまった言葉が収録されている。子ども向けの事典という扱いはあるが、美しい写真とも相俟って、煌々言葉の見本帳のようだ。また、1つの言葉を介して賢治の作品同士の繋がりが見えてくるところなども面白い。



『宮沢賢治 中島敦 池澤夏樹／編（河出書房新社）



宮沢賢治…極めて難しいテーマである。この機会に改めて幾編かの詩や童話に触れてみたが、その宇宙的感覚、仏教的心情に一瞬で凌駕されてしまう。「読み取るスキル」を試され、いつしか自分と向き合う時間が流れる。

子どもの頃に触れた賢治も難解で、初めて目にする擬音語が妙に印象に残った。授業やテストで、賢治の伝えたかったことは？と正解を問われ、大苦戦した思い出がよみがえる。が…正解はないのだと、大人になって確信する。

優れたフィクションこそ、人生の変遷に沿って何度も読み返し、その感じ方も変わっていくもの。悲しみや苦しみ、罪の意識などは特にそうではないだろうか。

皆さんも「今の自分」でもう一度、宮沢賢治の名作たちの扉を開いてみませんか？



『銀河の通信所』 長野まゆみ／著（河出書房新社）



宮沢賢治が没して84年になるが、生前、詩人・作家として世に知られることはなかった。賢治の存在を世間が知るのには、賢治の薫陶を受け、新庄市鳥越で農村改善運動を実施し全国的に有名になっていた松田甚次郎が、賢治の没後に『宮沢賢治名作選』を刊行したことが契機であった。

現在、賢治作品は世界的に知られ、研究本も数多く出版されている。しかし、この「銀河通信所」はこれまでの研究本とは違った構成になっている。

銀河通信所の取材班が特別な回線によって賢治や生前賢治と関わりのあった故人、賢治作品の登場人物などに取材し、インタビューに答える形式で書かれている。そのインタビュー記事を読み進めるうちに、賢治の生きた時代の社会状況や作品が生まれた背景、賢治作品の登場人物のモデルになった人々が徐々に浮き彫りになってくるという、ちょっと不思議な本である。



『世界一楽しい 遊べる鉱物図鑑』 さとう かよこ／著（東京書店）

宮沢賢治と聞くと、きらきらした映像がぱあっと頭に浮かびます。例えば、ますむらひろしさんが描く猫達の童話や、岩手県花巻市にある宮沢賢治童話村の、鉱物や動物、宇宙にまつわる展示など…（ますむらひろしさん著作も所蔵しています！）

『銀河鉄道の夜』の河川になる鉱石や、『ひかりの素足』ののがって人の足を突き刺す鉱石など、多くの童話の中にちりばめられている、きらきらした石たち。生きていないのに形を変えたり、まったく似ているようで全て違っていたり、途方もないくらい大昔のものだったり、光ったり、顕微鏡でのぞくと銀河のように見えたりします。

宮沢賢治も農学地学の研究者から宇宙探査者、宗教家といったいろんな顔を持っていましたが、同じようにいろんな顔を見せる「鉱石」から、宮沢賢治作品を考えてみるのもいいのかも…？と思っています。

